

各 位

2020年甲子園高校野球交流試合 JNN各局への素材伝送でクラウドを活用

8月10日(月・祝)から阪神甲子園球場で開催される「2020年甲子園高校野球交流試合」において、当社とJNN系列各局が共同で運用する「JNN甲子園本部」(以下JNN本部)はクラウドを活用した各局への素材伝送により、業務の効率化と番組内容の充実を図ります。

JNN本部は大会期間中、甲子園球場周辺に設置されるJNN系列各局共同の取材拠点です。JNN本部では、JNN系列各局の取材内容を共有し、円滑な取材活動を後押しするとともに、試合の中継映像や独自取材した映像素材を編集し、従来はSNG(通信衛星を活用した素材収集)回線で各局に伝送してきました。

SNG伝送は一つの回線で複数局に同じ素材を一斉配信することには優れているものの、それぞれの局に異なる素材を同時に送れないため、順番待ちが発生するという難点があります。また伝送に実時間がかかる、収録し逃すと再送が必要になることも課題でした。

クラウドの活用で複数素材を同時に送れるようになれば、JNN各局は地元校が出場する試合で独自取材をギリギリまで放送に入れ込むことが可能になるなど、各局の午後～夕方帯のローカルワイド番組の放送内容の充実に大きな期待が出来ます。

また、300Mbps程度のインターネット回線速度を確保できれば、素材(XDCAMコーデック MPEG422 50Mbps)の実時間よりも短時間でアップロード、ダウンロードができることも確認できました。アップロード側もダウンロード側も特別な放送機材は必要なく、一般的なパソコンさえあれば都合のよい時に素材が共有できます。

一方、クラウドの活用には障害発生時に独力で対応できないリスクやセキュリティ上の不安がありますが、SNGの併用やアクセス制限などで対応予定です。クラウドの構成によっては費用がかさむのも課題ですが、大会期間中のみの従量課金で利用できるため、今回だけでなく年末年始に開催される全国高等学校ラグビーフットボール大会など、一定期間限定のイベントやスポーツ大会での幅広い活用が見込めます。クラウド環境はMicrosoft Azureを利用します。

今回の素材伝送でのクラウド活用だけでも、性能・費用の両面で大いに期待できるものですが、今後は操作性に課題があるとされるクラウド編集の実験等も重ね、クラウド活用のノウハウを蓄積してまいります。ひいては当社グループのデジタル技術を活用した業務効率化、DX推進に大きく寄与するものと期待しています。

以上